

分かる喜びを知り、自ら主体的に学ぼうとする子の育成

～基礎・基本の定着を図り、確かな学力の向上をめざす～

御所市立掖上小学校

I 昨年度の課題と研究課題の設定

本校児童の学力向上を目指してスタートした取組も2年目を迎えることとなった。昨年1年間の取組は、基礎学力の向上という点において、ほとんどの学年で一定の成果が見られた。それはまさに、全校を挙げての継続的な取組の成果であると考え。しかし、その一方で、少し難しい問題に直面した時に「自ら考えようとしないう」「すぐにあきらめてしまう」本校児童の実態や、単に学力向上の取組の強化だけでは解決することのできない、児童を取り巻く厳しい実態が課題となった。

朝食を食べて来ない、夜遅くまで起きているなど基本的な生活習慣が確立されていない児童に対し、家庭の支援、協力を得ながら生活改善を進めていくことが、学力向上には欠かすことができない要素であることを確認した。

そこで、本年度は昨年同様のテーマのもと、より一層基礎・基本の定着を図り、児童一人一人の学力向上を目指すために、以下の3本柱を立てて、取組を進めることにした。

主題に迫る
ための取組

- 1 教員の指導力を高める取組
- 2 基礎・基本の定着を図る取組
- 3 家庭学習を充実させる取組

II 取組の内容

1. 教員の指導力を高める取組（授業力向上研究部）

- (1) 各学年の推進計画を立てる。
- (2) 研究授業を通して学び合う。

①本年度実施した研究授業。

日 程	学年・組	教 科	単元・題材
7月1日（水）	6年2組	算数	体積
7月8日（水）	5年2組	道徳	しばてん
10月28日（水）	3年2組	算数	長さ
11月11日（水）	1年1組	算数	どちらがながい
2月2日（火）	4年1組	道徳	郷土の発展につくした人々

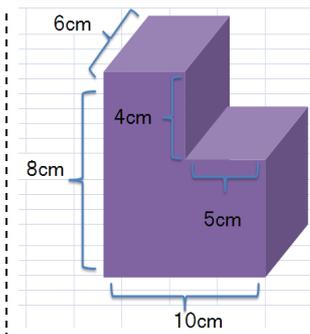
※2/2の研究授業は、市道徳部会の授業研究も兼ねた。

〈実践例〉 「体積」（6年算数）

ねらい・・・複合立体の体積は、立体を分割したり、補ったりして立方体や直方体に帰着させて体積を求めさせていく。1つの方法に終始せず、児童一人一人がいろいろな求め方を追究し発表しあうことで、多様に思考することのよさや楽しさを味わわせる。

展開

○直方体、立方体の求積方法を確認する。



- 複雑な立体の求積方法を考える。
「縦に分割する方法」「横に分割する方法」「縦横3体に分割する方法」「縦、または横に分割し合体する方法」「全体から右上部分をひく方法」などの方法を児童が式の説明をしながら発表し、多様な方法があることを考える。
- 複雑な立体は、「分ける」「引く」「動かす」等の方法で求められことを理解する。

②授業公開週間を設けて、それぞれの授業を研究し合う。

4～6年・・・2月1日（月）～2月5日（金）

1～3年・・・2月15日（月）～2月19日（金）

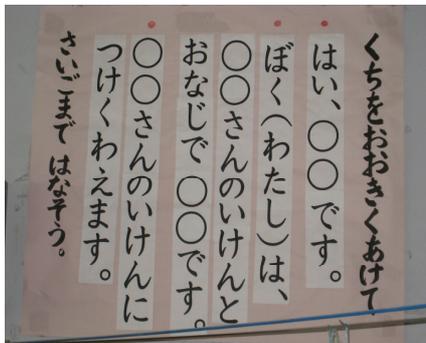
- (3) 算数科において、各学年とも年間指導計画の見直しを行い、新たに作成する。
- (4) 各種研究会、研修会に積極的に参加する。
- (5) 教職員の授業力を高めるための講師を招いての研修

実施時期	研修内容
6月16日（火）	算数科の授業づくりについて 低・中・高学年ごとに、児童の実態を踏まえた今後の学力向上の取り組み方を探る。
7月21日（火）	外国語活動（英語活動）の進め方と指導上の留意点について
7月29日（水）	算数科の学習指導に関して、指導者の授業力向上に向けて 「出来る、分かる算数の授業を目指して」
7月30日（木）	児童の実態を踏まえた東市リバイバルプランの実際 本校3名の事例をあげて、指導・支援の方法を探る。
8月6日（木）	ねらい・・・自ら考え、問題を解決しようとする力の育成 「聞く」「もどす」「つなぐ」の授業の在り方について
10月14日（水）	1学期からこれまでの取組を振り返り、学級ごとに自己評価し、今後の課題を明らかにする。
1月13日（水）	児童の体力向上に向けた学習指導の展開と工夫をテーマに、体育担当教員から提案し、話し合いを行う。
2月17日（水）	県教科等研究会の学力診断テストの結果や教職員の自己評価から1年間の取組の効果を話し合い、来年度に向けての課題を明らかにする。

2. 基礎・基本の定着を図る取組（基礎学力研究部）

- (1) 「すずかけタイム」（業前学習）を活用した読書、漢字の書き取り、四則計算などの日常継続的な取組の充実
- (2) 個に応じた学習に対応した東京書籍「問題データベース」の導入
〈活用例〉

- ① 各単元の「ドリルプリント」を家庭学習の課題として取り組み、確かめさせる。
 - ② 各単元の「ドリルプリント」「フォローアッププリント」「たしかめプリント」「チャレンジプリント」を各自の習熟度に合わせて取り組ませる。
 - ③ 単元テスト前に、児童に応じて、課題の見られた問題を作り替えて重点的に取り組ませる。
- (3) 教室・校内環境の整備（「話し方の基本話型」「読書の木」「読書カード」）



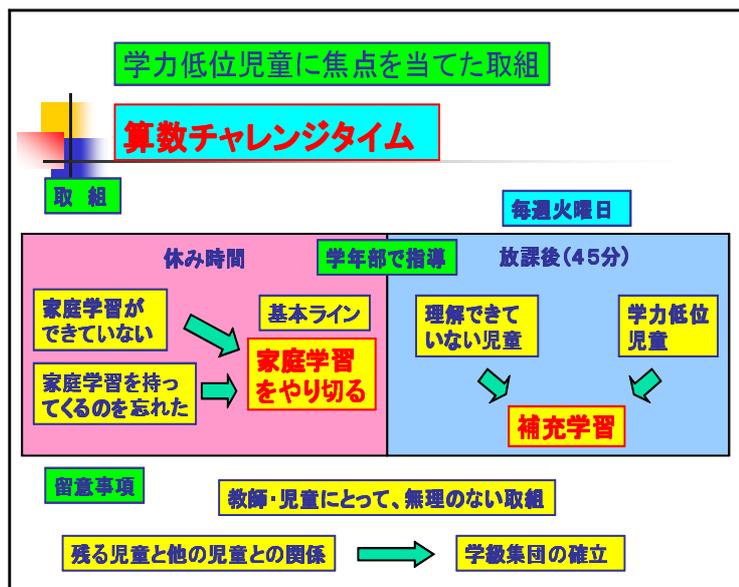
「話し方の基本話型」



「読書の木」

(4) 算数チャレンジタイムの実施

- ①実施日：毎週火曜日放課後
- ②対 象：算数科に課題をもつ児童
- ③ねらい：算数に対する苦手意識の克服や分かる喜びを味わわせる。
- ④内 容：各学級担任が児童にあった課題を設定し、指導する。
- ⑤留意点：対象児童については保護者に趣旨を説明し、理解を得る。



(5) 授業開始10分間で行う基礎学力の充実

- ①国語・・・ミニ漢字テスト、音読
- ②算数・・・100マス計算、4年生以上は筆算の定着

3. 家庭学習を充実させる取組（家庭学習支援研究部）

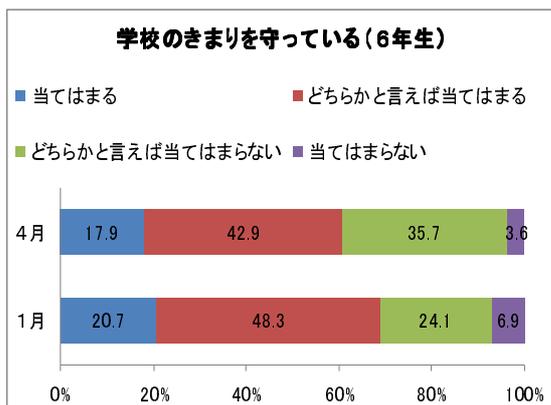
- (1) 家庭学習についての実態アンケートを実施し、結果から課題克服の方法を考える。
- (2) 家庭学習の内容や量について全職員の共通理解を図る。
- (3) 保護者への啓発を図る。（低・中・高学年別にプリントを配布）

- ①家庭学習の重要性に関する学校方針の説明
- ②家庭における学習時間の確保
- ③基本的な生活習慣についての呼びかけ（早寝早起き・朝食・ゲームの時間等）
- (4) 月1回、一週間を通して家庭学習の状況の把握（保護者が生活記録表に記入）

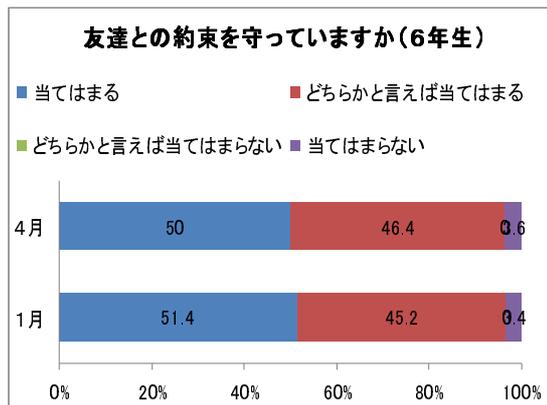
Ⅲ 結果と考察

1. 「生活習慣、規範意識」に関するアンケート結果より（指標3）

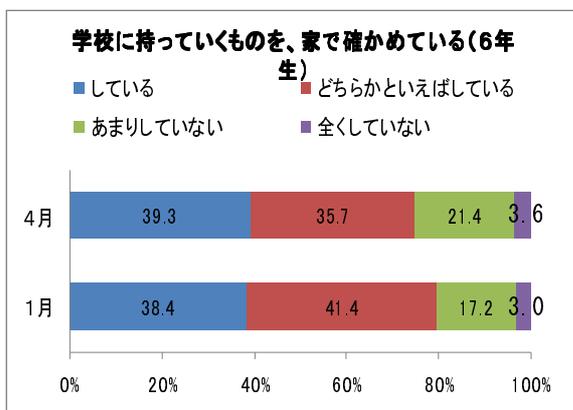
〈グラフ1〉



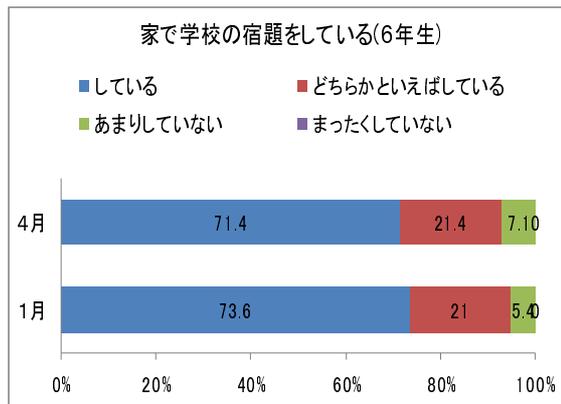
〈グラフ2〉



〈グラフ3〉



〈グラフ4〉



6年生児童の規範意識について、「学校のきまりを守っている」割合が、60.8%から69.0%に、「友達との約束も守っている」割合も0.2ポイント上昇し、96.6%と、高い割合で維持されている。〈グラフ1〉〈グラフ2〉しかしながら、全国平均と比較すると、まだまだ不十分である。

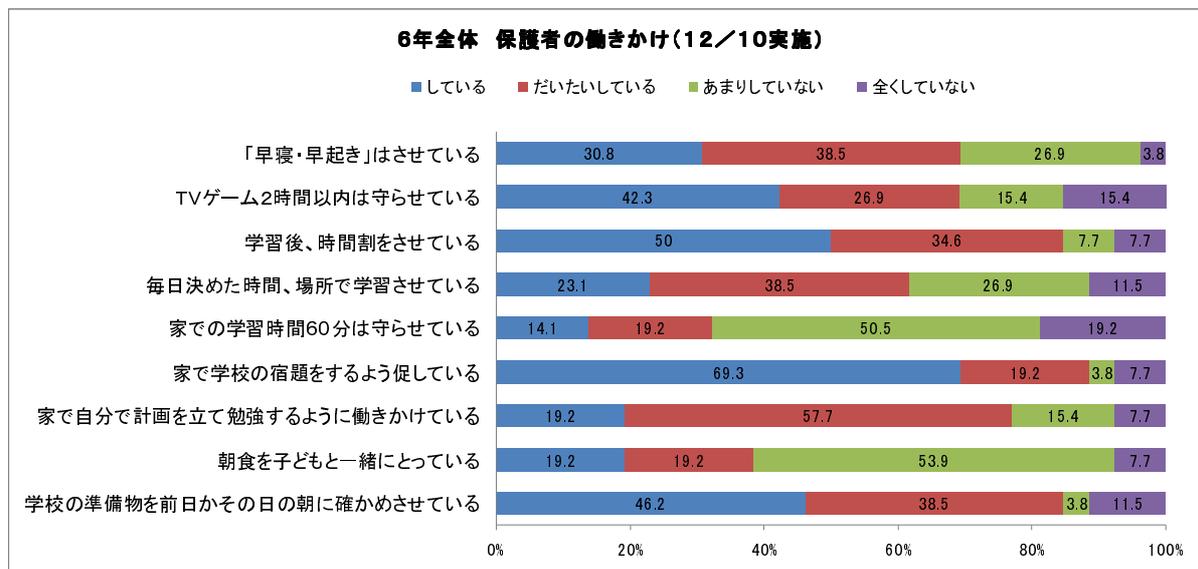
また、「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている」割合が、75%から79.8%と上昇し、基本的な生活習慣が定着してきている。さらに、「家で学校の宿題をしている」割合もわずかながら上昇し、94.6%と家庭での学習習慣も定着していると考えられる。〈グラフ3〉〈グラフ4〉

これらは、学年当初から、基本的な生活習慣と学力向上との関係を重視し、個に応じたきめ細かな指導、さらに、保護者へ学習の手引きを配布して、家庭訪問等で協力を呼びかけるなどの取組を繰り返し行ってきた成果が現れたものと考えられる。

2. 「家庭における学習習慣や生活習慣」に関するアンケート結果より（指標4）

保護者には、学年当初と比べてどう変化したかという観点で回答してもらった。

〈グラフ5〉



生活記録表への記入など、児童の基本的な生活習慣の確立に向けての取組や家庭訪問などを通して、家庭学習の定着を図ってきた。家庭学習への保護者の支援については、まだまだ不十分ではあるが、「家で学校の宿題をするよう促している」点や、「学習後の時間割をさせている」点など、関心が高まってきていると言える。〈グラフ5〉

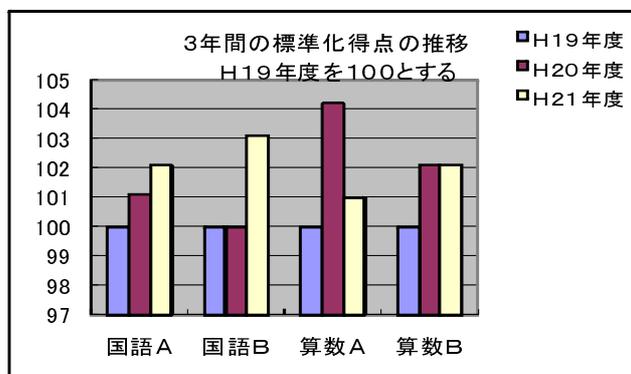
3. 全国・県との比較から見た学力

〈グラフ6〉

(1) 全国学力・学習状況調査結果

H19年度の標準化得点を100とし、過去2年間の標準化得点を算出した。〈グラフ6〉

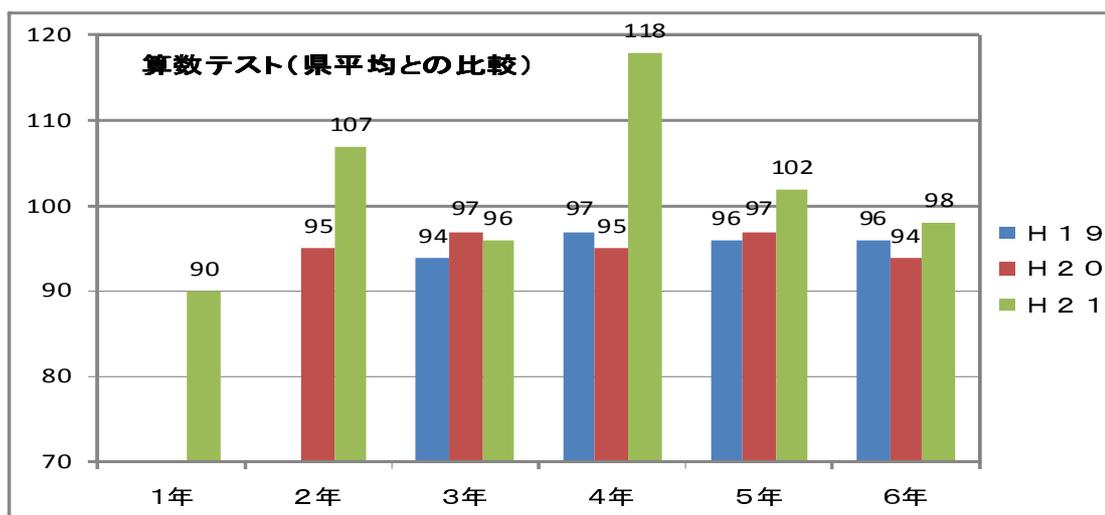
対象児童が異なるので一概には言えないが、概ね向上してきていると言える。



(2) 県学力診断テスト結果

算数科において、H21年度は、H19年度に比較してほとんどの学年で県平均との差が縮まった。中には、県平均を上回る学年も出てきた。特に2年生、4年生では、県平均を大幅に上回った。〈グラフ7〉

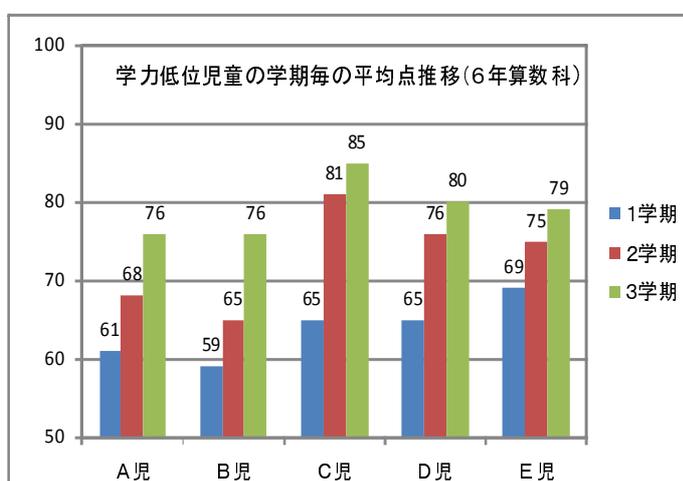
〈グラフ7〉(各年度の県平均を100とした場合)



(3) 学力低位児童(6年)の学力推移

全国学力・学習状況調査で低位であった6年生児童5名の算数科の学期ごとの平均点推移を〈グラフ8〉に表した。5名とも、学期が進むにつれて平均点が向上してきている。これは、算数チャレンジタイム及び家庭学習の強化、放課後や休憩時のきめ細かな個別指導による結果であると考えられる。

〈グラフ8〉



4. 次年度に向けて

授業力向上、基礎学力向上、家庭学習支援という三つの柱を立て、取組を進めてきた。授業研究や、講師を招いてのスキルアップに取り組む中、教員の指導力は着実に向上している。また、個に応じたきめ細かな指導を繰り返し行う中で、児童の基礎学力は向上してきていると考える。しかしながら、日々の取組の中で、「読解力」「思考力」「活用力」における課題が明らかになった。今後、基礎学力をさらに定着させながら、これらの力をはぐくむための学習指導の在り方や、授業展開の工夫について研究し、推進していかなければならないと考える。

さらに、「基本的生活習慣」「学習習慣」の確立においても、家庭の支援を得られるように、保護者への働きかけや連携をより一層強化していかなければならないと考える。